

# 古文書のAMS<sup>14</sup>C年代測定

— 「木食応其の書状の写し」 についての測定結果 —

小田寛貴<sup>1)</sup>, 増田 孝<sup>2)</sup>

1) 名古屋大学年代測定総合研究センター

〒464-8602 名古屋市千種区不老町 Tel:052-789-2579, Fax:052-789-3092

2) 愛知文教大学

〒485-0802 愛知県小牧市大草年上坂 5969-3 Tel:0568-78-2211

我々はいままで、書跡史学の見地から年代を求めた古文書の<sup>14</sup>C年代測定を行ってきた（小田・増田ほか、2000；小田・増田、2001；小田・増田、2002；Oda, Masuda et al., 2003）。こうした研究によって、和紙は“old wood effect”による誤差（ずれ）が小さく、測定によって得られる自然科学的な年代が、その文書の書かれた歴史学的な年代と大きく異なるものではないことが明らかにされた。また、こうした研究成果の上に立ち、年代未詳の試料についても<sup>14</sup>C年代測定を行ってきた。本報は、「木食応其の書状の写し」について得られた<sup>14</sup>C年代を報告するものである。

測定に供した資料は、木食応其（興山上人、1537～1608年）の署名・花押をもつ古文書である。差出人は木食応其であり、治部卿法眼（醍醐寺の坊官、治部卿法印長盛）に宛てた書状で、七月十三日の日付を有している。以下に翻字したものを記す。

以上

如来大仏へ御

遷座弥十八日にて候

大仏へ本尊入仏候て

其まゝ理趣三昧

成共そつとみしかき

事可然候天台ハ又

其方之勤行ある

へく候いそき候而

書中慮外ニ候

恐々謹言

木食

七月十三日応其（花押）

治部卿法眼

さて、七月十三日の日付を有する木食応其の書状にはもう一通があり、受信人も同じく治部卿法眼である。その内容は以下のとおりである。

猶々上のたいこへも  
懇ニ可被仰遣候  
以上  
如来之御迎十  
八日ニ相定候然は  
馬上之衆いくたりと  
ある事人数書  
可給之由徳善院より  
承候間一人もちかひ候  
ハぬやうニしるし  
可給候又からかさ  
十六日我等所まで  
取ニ可給候恐々謹言  
木食  
七月十三日応其（花押）  
治部卿法眼

すなわち、差出人・受取人・日付が同じ二通の書状である。慶長元年（1596年）閏七月に京都を襲った地震は、豊臣秀吉が方広寺に造営した大仏を瓦解させた。その後、秀吉は武田信玄によって甲府の善光寺に移されていた一尺五寸の如来を、大仏に代わって方広寺に迎えようとする。この際の、如来遷座の奉行を務めたのが木食応其である（『義演准后日記』慶長二年七月七日～十八日条）。先の二通の書状は、ともにこの時の如来の迎えに際してのものである。

しかしながら、これらの両文書は、差出人・受取人・日付が同じながらも、異なる書風をもっているのである。木食応其のような高位の人物の書状の場合、右筆であることも考えられるが、その書風から判断すると、後者の史料が自筆であり、前者は他の人物の手になるもの、しかも右筆書きではなく写しであると考えられる（増田，2003）。さらに、その書風や料紙にもとづき、それほど時代の下るものではなく、ほぼ同時期の写しであることが推定される。この点を明らかにすべく、この「木食応其の書状の写し」について<sup>14</sup>C年代測定を行った。表1にその結果を示した。

表 1. 「木食応其の書状の写し」のAMS<sup>14</sup>C年代

測定回数	<sup>14</sup> C年代 [BP]	較正年代 [cal AD]
1	344±33	1482(1517)1530, 1546(1596, 1619)1635
2	346±31	1482(1517)1528, 1550(1597, 1618)1633
3	363±33	1472(1489)1522, 1569(1604, 1607)1627
4	312±37	1516(1529, 1548)1599, 1616(1634)1643
5	377±33	1452(1482)1518, 1596()1620
6	378±30	1453(1482)1517, 1597()1618
av. ±1σ	353±13	1486(1494, 1503, 1508)1519, 1592(1600, 1614)1623
±2σ	±27	1479(1494, 1503, 1508)1525, 1559(1600, 1614)1630

六回の測定結果の平均値は、<sup>14</sup>C年代で353±13[BP]である。較正曲線上において、この350[BP]付近の<sup>14</sup>C年代は、暦年代の1500[cal AD]頃と1600[cal AD]頃に相当する。それゆえ、較正後の年代も、15世紀末から17世紀初頭にわたる範囲を示している。

しかしながら、木食応其の生年は天文六年（1537年）であり、しかも、この文書は慶長二年（1597年）七月十三日に書かれた書状の写しである。

それゆえ、これらの点と<sup>14</sup>C年代測定の結果とを考えると、この「木食応其の書状の写し」は、16世紀末から17世紀初頭の、原本が作成されてからそれほど時代を経ずして書写されたものであると結論付けることができる。

#### <謝辞>

この研究の一部には、日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究（B））、課題番号14780091、研究代表者：小田寛貴）を使用した。記して感謝いたします。

#### <参考文献>

- 増田 孝 (2003) 木食応其の書 — “自筆” と “写し” と — . 『墨』2003年9・10月号 (通巻164号), 芸術新聞社, 100-103.
- 小田寛貴, 増田 孝, 吉沢康和, 藤田恵子, 中村俊夫, 古川路明 (2000) 加速器質量分析計による古文書および古経典の<sup>14</sup>C年代測定. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, XI, 123-145.
- 小田寛貴, 増田 孝 (2001) 古文書のAMS<sup>14</sup>C年代—近世の古文書と浄瑠璃寺阿弥陀如来像印仏の測定結果—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, XII, 63-71.
- 小田寛貴, 増田 孝 (2002) 古文書のAMS<sup>14</sup>C年代—年代既知の古文書五点と伝藤原行成古筆切の測定結果—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, XIII, 189-194.
- Oda, H., Masuda, T., Niu, E. and Nakamura, T. (2003) AMS radiocarbon dating of ancient Japanese documents of known age. *Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry* 255(2), 375-379.

# Radiocarbon age of an ancient Japanese document

Oda, H.<sup>1)</sup> and Masuda, T.<sup>2)</sup>

- 1) Center for Chronological Research, Nagoya University, Nagoya 464-8602, Japan
- 2) Aichi Bunkyo University, Komaki, Aichi 485-0802, Japan

This paper reports radiocarbon age of an ancient document which is a copy of a letter written by Mokujiiki Ōgo (1537-1608). Based on the content of the letter, it is clear that the original letter was written in AD1596. Although the document has a sender's name "Mokujiiki Ōgo", an addressee's name and a date (July 13), the handwriting is different from that of other genuine letters of Mokujiiki Ōgo. Therefore, the document seems to be a copy. The calibrated radiocarbon age of the copied document was 1479-1525, 1559-1630 [cal AD]. The original letter was written in AD1596 by Mokujiiki Ōgo (1537-1608); consequently, radiocarbon dating indicated that the document was written in the end of 16th or the early 17th century.